



## 賛美をとおしての聖化の高揚

関東聖化大会音楽担当  
チャーチ・オブ・ゴッド川崎教会牧師

古波津保秀

私が聖化大会にはじめて出席し参加させていただくようになったのは、六度目の赴任地であった春日井開拓時代のことでした。東海聖化交友会の前委員長の竿代信和先生のご指導のもとでの、同じきよめの信仰に立つ諸教団の先生方と信徒の方々との

東聖化大会に加わらせていただきました。ことに昨年の聖会では、ロナルド・スミス博士をとおして「主の御顔」についての深い洞察のあるメッセージにふれ、聖化大会の霊的な味わいの豊かさを満喫しました。

的に賛美する時間が少ないのではという点、また、きよめのメッセージに富んだ聖歌・賛美歌が現代において力強く賛美されるためにも、近年歌われているワークショップと組み合わせる工夫があってもいいのではと思います。できることなら、現代の若い世代にきよめの信仰を喚起させるきよめのゴスペルやきよめ主を賛美するワークショップが生まれるとよいのではないのでしょうか。それは聖化の恵みを次世代まで高揚するためにもぜひ必要なことだと存じます。

幸いな交わりは大変大きな祝福となりました。ことにそれは開拓期にあった私たちにとって、実践的にも教理的にも教会形式においても非常によい方向性を与えてくれました。また毎回八十余名に及ぶ各教会の信徒による合同聖歌隊の指揮をしながら教えられたことは、賛美をとおして聖化の恵みを高揚することがいかに重要であるかという点でした。

また新参者であり、音楽の面で全くの素人である者が音楽指揮の代打を仰せつかり、大変恐縮しております。今も思い返すと「恥はわがもの、栄えは主のもの」というほかありません。足らざる奉仕をお赦しくだささい。また時間を割いてご協力してくださった神学生の兄弟姉妹にはこの紙面を借りて御礼を申し上げます。

因みに、昨秋の聖化大会コワイアのテーマソングは「聖靈きたれり」でした。

一昨年川崎に赴任し、さっそく関

想として少しく感じたことは、全般



教 勢

月 日	集 会 名	集会人数
10月18日(月)	セ ミ ナ ー I	286
	レ セ プ シ ョ ン	52
	講 演	330
	聖 会 I	440
10月19日(火)	女 性 大 会	411
	教 師 交 歓 会	37
	セ ミ ナ ー II	330
	神 学 生 交 歓 会	122
	聖 会 II	456

財 勢

集会名	席上献金	予約献金	合 計
聖 会 I	372,765	1,128,500	1,501,265
聖 会 II	529,198	245,000	774,198
セ ミ ナ ー II	223,249	127,500	350,749
女 性 大 会	394,982	487,000	881,982
そ の 他	7,100	111,500	118,600
合 計	1,527,294	2,099,500	3,626,794

『神の御顔』 創世記32章22-32節 聖会 I

ロナルド・スミス博士

私たちはさばきと救しの神という

イメージに慣れているが、今日は家

族的イメージで神を考えよう。キリ

ストによって神の子とされ、互いを

兄弟姉妹と呼ぶ私たちは、きよめら

れることによって神と顔と顔を合

わせる親しい交わりの中に入る。ヤ

コブは自らの人生体験から相手の顔

を見ることの大切さを知っていた。

おじラパンの家で花嫁がベールをあ

げたとき、そこにはラケルではなく

レアの顔があったからである。また

申命記34章10節にも神と顔を合わせ

ることがモーセの貴重な体験として

記されている。聖なる神の御顔を見

ることができる恵みを深く思い巡ら

そう。

申命記6章22-27節のモーセの祈

りの中心は「主が御顔をあなたに照

らし」である。イスラエルは神と顔

を合わせることで解放と救いを体験

し、大きな祝福を受けた。日々の生

活、またその後の歴史においてもそ

の大切さが強調されている。

イザヤ書59章2節には「御顔を隠

させ」とある。神の怒りを表すヘブ

ル語は神の鼻が怒りて真っ赤になる

という意味である。自分と神との関

係がどうであるかは神の表情を思い

浮かべれば一番良くわかる。不誠実

な生き方をしていけば、神の御顔を

仰げない。しかし、救いの中に導き

入れられるなら神と顔を合わせて生

きていこうと喜びとなる。人は御

顔を見てなお生きてはいけないはず

なのに、神は私たちを愛し、特別な

岩の狭間を設けられた。それがキリ

ストである。私たちはキリストにお

いて岩の狭間に隠れて神の御顔を見

ることができ。顔と顔を合わせ

ることが救いのすべてである。

歴代誌第二7章14節には「わたし

の顔をしたい求め」とあり、祈りの

対象は神の御顔である。私たちが慕

い求めるなら救いといやしがある。

黙示録には、神の小羊から放たれ

る光(21章23節)によって御顔を仰

ぎ見る(22章4節)とある。主イエ

スこそ神の御顔が映し出された方

である。

私たちが求めているのは賜物、教

え、恵み、祝福ではなく、神ご自身

である。聖潔は私たちがその神ご自

身とどのような関係を保っているか

にかかっている。聖書全体を通して

神の民に求められている生き方は神

と顔と顔を合わせて礼拝し、主の

温かな御顔の光に照らされ、祝され、

平安を得、罪赦され、導かれていく

ことである。私たちをご自身の目を

もって導いて下さる(詩篇32篇8節)

主との交わりの中に生きようではな

いか。

(寺村秀嗣)

## 第14回関東聖化大会報告

昨年10月18日(月)―19日(火)、新装なった淀橋教会を会場として第14回聖化大会が開催されました。主講師としてロナルド・スミス博士、邦人講師として田代幸雄博士をお迎えし、恵みに満ちた2日間の集会をもつことがゆるされました。聖会のメッセージと教財勢を掲載いたします。

### 『贖いの愛の中に生きる』第二コリント5章14―21節 聖会II

ロナルド・スミス博士

パウロが伝えた信仰の本質とは愛を目標としている教え(テモテ第1章5節)であった。ホーリネス信仰の土台は神ご自身が私たちの愛を完成に導いて下さるといふ恵み(ガラテヤ5章6節)である。

ギリシヤの哲学者プロタイナスは天の絶対者の持つ全き愛が、愛を求める人間の世界に入ったならばどうなるかという疑問を投げかけたが、神はそれに応えるようにキリストをこの世に送られた。もし聖書が語るように、完全なる愛の神が不完全なこの世との関わりを願っておられることが事実ならば、私たちも神を愛することのできる存在に恵みによって変貌していただかねばならない。ところが多くの場合クリスチャンは愛に関して乏しい概念しかもっていない。私たちはかつてのウエスレーのように、神を愛する愛が自分にはないことを悟るのだ。全き愛はまさ

にそこから始まるのだが、人間的愛をすべて否定することによって神は愛することができるようになると考へるのは間違いであり、聖書的ではない。むしろ神はご自分の愛を注ぐことで私たちの愛を完成へと導かれる。私たちはその過程で三つの愛に直面する。

自分を愛する：過去に受けた心の傷の故に自己評価が低いと建設的な歩みはできない。限度を超えて自分を過大評価したり、過小評価したりせず、正しく自分を見、愛することができるようになる。神の愛を注いでいたが、そのときはじめて自分を愛するようになる。隣人を愛せよとの主の命令を実行できるようにする。隣人愛：人間関係が壊れると信仰生活は力を失い、苦々しい思いが私たちの人格や行動を支配し、そこから愛が流れ出ることはない。聖潔を求めらるなら、隣人との関係を正す必

要がある。自分にはできないが、主が私たちを助けて下さる。

異性への愛：人間に与えられた異性への愛は一人の男性と一人の女性の間においてのみ許された忠実な愛である。しかし、現実には最も歪み、全世界を悩ます問題となっている。光の子である私たちが性的問題で過ちを犯すならば、個人の罪に止まらず、キリストと教会との聖なる関係そのものを汚していることになり、教会の一人一人に大きなダメージを与える。私たちはこの面でも神の愛を注がれて、きよめられる必要がある。

主イエスは私たちの心のうちに力強く入り、愛に生きる本来あるべき姿へと変えて下さる。

(寺村秀嗣)

# 書 籍 紹 介

小出 忍と  
その時代

小出 忍

## 「小出忍とその時代」 小出忍著

発行 ウェスレアン・ホーリネス教会連合

連合ホーリネス中央教会

1998年12月25日

小出忍牧師は、小原十三司牧師が一九七二年(昭四七)に召天された後、一九八六年(昭六一)三月まで、日本キリスト教団ホーリネスの群の中央委員長であった。この時期を含んで約二十年間、群の機関誌「ホーリネス」の巻頭言を書き続けた。一九六九年以来、日本キリスト教団は、信仰告白、会議制、職制及び教師検定試験等の諸問題が問題提起者によって突き上げられ、大揺れに揺れていた。一九九九年四月の「いのちのこぼれ」における「書評」で山口陽一牧師(日キ吾妻教会)が、「聖書が反キリストと呼んでいる者を許容するほどに大きく変質した教団に留まって、悪しき感化より羊を守ることは容易ならぬことである。(中略)ここに「出て」、「別れ」、「離れ」の必要が生まれる羊を悪しき感化より守ることは羊飼いの責任ではないか(一九八一年三月)」という所を抜粋し、日本キリスト教団という負の遺産と格闘した著者の息遣いに理解を示しています。

教師検定は、常議員会の第二回議決「いかなる立場の切り捨ても起らない方法で」、第五回議決「信仰告白を規準にして」行うと言う全く矛盾した基本方針をもって実施されるようになった。アウグスチヌスの考え方を援用して、実施基準や実務担当者の問題があっても教会の試験なのだから信じて受ければ有効であると、これに応じた者もあつた。

同じ群の中から数名の良心的教師試験受験拒否者が生じた。アウグスチヌスの考え方は、緊急避難の論理であつて、良心の声を押し殺して形式だけ満たすことは、ホーリネスの宣証の純正性を損うと信じたのだ。著者の信仰の軌跡を示す、機関誌「ホーリネス」の巻頭言をまとめて一冊にしたのが本書である。ホーリネスを教会形成に証した好一例である。

ウェスレアン・ホーリネス教会連合  
連合ホーリネス中央教会牧師  
本間 義信

# 地域だより

## 九州聖化交友会

第十回九州聖化大会

九州聖化交友会では一九九九年十月十四日、十五の両日、第十回大会を熊本市内のナザレン熊本教会において開催しました。講師は一九九八年の日・マゴニカル博士に続き、一九九九年も関東、東海、関西が迎えられた海外からの講師、ウェスレー・ビブリカル・セミナリー学長R・スミス博士をお招きしました。

スミス博士は十四日夜の聖会ではヨハネ十四章十四、十八節から、十五日夜の聖会ではヘブル書十三章十二、十六節よりホーリネスのメッセージを語られました。また十五日、午前の婦人大会はエレミヤ記二十三章一、六節、そのメッセージに先立ちドーリーナ夫人が救いとホーリネスの真実な証を語られました。さらに午後のセミナーでスミス博士は「ジョン・ウェスレーの

合同精神と三つの議論」と題して、静寂主義、キリスト者の完全、選びの教理と律法廃棄主義を語られました。

スミス博士の学的な深さとキリストへの愛からにじみ出るホーリネスの説教は、ホーリネスを求める人を献身へと導き、またホーリネスに生きる者を励ます幸いなメッセージでした。スミス博士の通訳にはインマヌエル神戸教会岩上祝仁先生がご当務くださいました。説教者、通訳者に私ども深く感謝しております。

九州聖化交友会の始まりは小さなものでしたが、大会の回を重ねるごとに九州一円から牧師、信徒が多く出席され、夜の聖会は百名前後の出席者でした。年毎に聖化のメッセージが波紋のように九州全域に広がりを感ずることを感謝しております。(國重雅治)

## 総務リポート

▼聖化第28号をお届けします。三月には全国評議員会が開催されます。二〇〇〇年も聖化の拡大のために労させて頂きましょう。(係)